

公告 昭38.9.4 出願 昭36.6.14 (前特許出願日援用)
実願 昭37-71950

考案者	フロリン、イー、ロン グ	アメリカ合衆国オハイオ州フレデレ ンクタウン、アール、アール2
同	フレッド、ビー、ジョ ー	アメリカ合衆国マウンド、バーノン バークロードルート8
出願人	コンチネンタル、カン カンパニー、インゴー ボレーテッド	アメリカ合衆国ニューヨーク州ニュ ーヨーク17東42番街100
代表者	エル、ウイルキンソン	
代理人弁理士	川 部 佑 吉 外1名	(全4頁)

二 区 別 包 裝 委

図面の簡単な説明

オ1図は、本考案の主題である包装袋斜面図であり、その全体的外形を示す。オ2図は、オ1図に示す包装袋の直立面図でその全体的詳細を示す。オ3図は、オ2図の断面3-3にそつてとつた袋端部の長手方向断面部分拡大図であり、袋の端部を閉じる方法を示す。オ4図は、オ2図の断面4-4でとつた袋の側部の横手方向断面部分拡大図であり、その総体的関係を示す。オ5図は、包装の一端の部分的拡大斜面図で、破れる過程にあるその内袋を示す。

考案の詳細な説明

本考案は、総体的には包装法における新らしい有用を改善するものであり、特に使用時には一つにされる二つに区分された材料の一体としての積出および混合に特に適している新らしい二区画包装袋に関連するものである。

初め二つに分けて包装しておいてから使用時に一つにするものは沢山ある。例えば食糧、冷却用混合薬、加熱用混合薬、加熱用混合薬、接着剤等が含まれる。通常は、これらはそれぞれ二つに分かれた包みに包装されるかあるいは一つの容器であるが二つの独立の区画の中にいれていて、その二つの包装または区画を開き、その二つの成分を混ぜる必要がある。問題にしている品物の二成分は一緒に混ぜ合せねばならぬのであるから。次のような包装法は非常に望まれるのである。その包装法とは成分は一つの容器に包装され、そこでは二つの成分が同じ容器中にいる。その容器は外側の小袋とを備えており、内側小袋と関連しており

内側小袋を破ると製品の二成分が外袋の中で混じるようになつてゐるようなものである。かような袋もない理ではないがしかしながらいまでは、外袋を破かずに確実に内袋を破く点にまた内袋の外袋内での支持構造に問題があつた。

それゆえ、望ましい混合物あるいは化合物を作るために必要に応じて混合出来るように、二つに分かれた物質をそれぞれ容れる内袋と外袋を備え、その二つの袋は、容れものを両端方向に引張つた時、確実に内袋が破れ、一方外袋はそのままになつてゐるせうに連結されているような新しい包装を準備するのが本考案の重大な目的である。

本考案のもう一つの目的は、内袋と外袋とからなる包装で、両端方向に外袋を引張つた時、外袋がそのまま残つてゐる間に、内袋は破れる程度にまで内袋に応力がかかるよう、内袋は外袋の内におかれて、またそなるような材料で作られていて、その二つの物質は、外袋の中で自由に混合され得るようになつてゐる包装を提供することである。

さらにもう一つの本考案の目的は、外袋と内袋とからなる新しい二区画包装、すなわち、内袋の両端は外袋の両端に配置され、そこで封じられている。そして二つの袋の材料の長さ、伸びおよび強さの相対的割合は容れ物の両端方向の引張が加えられた時、内袋は破壊点まで応力がかかるが、外袋はもとのままであり、外袋の内容物と混合するため内袋の内容物が直接的に外袋の中に入り得るようになつてゐる包装を提供することである。

さらに別の目的は内袋の両端を外袋に固定して

おいて、袋取扱中に内袋の浮動を防止し不意の内袋破損をからしめるにある。

上記の目的および以下に示される他の目的を考慮にいれ、次の詳細な記述、附記した請求の範囲およびそえてある図面で説明してある幾つかの見取図を参照することによつて本考案の性質はより明らかに理解されるであろう。

図面で説明する本考案実施例において、包装全体は一般的に10で示す。包装10は、一般に11で示す二区画からなつていて、袋11は外袋(一般に12で示す)と内袋(一般に13で示す)とから成つてゐる。

内袋13は2枚のシート材14で出来ておる、その2枚のシート材14はその上下縁に沿つて一緒に封着し縁部縫目15を形づくる。またシート材14はその左右端にそつて端部縫目16を形成するように一緒に封着している。内袋13にはオ1の物質17をいれる。

外袋12は二枚のシート材18で出来ておる。その二枚のシート材18はその上下縁に沿つて一緒に閉じて縁部縫目19となつてゐる。シート材18はまたその左右端にそつて端部縫目20を形成するように一緒に封着している。オ3図に最もよく図示してあるごとく、内袋13の両端は、外袋の端部の間に配管されており、端部縫目20を形成する間に、内袋13の端部は、外袋12の端部にとじつけられる。これに反して、オ4図に最も明確に図示してあるごとく、内袋13の側部は外袋12の側部から完全に遊離している。外袋12にはオ2の物質21が満たされる。この物質17とはちがうものであるがそれと配合されるようである。オ3および4図で明示してあるように物質21は内袋13を囲んでいる。

物質17および21は物質の二つ以上の配合物であつてもかまわない。物質17と21はこれの混和によつて欲する反応、あるいは欲する混合物あるいは欲する化合物を生じさせるために配合されるのであるといふことは理解されるべきである。また、物質17および21は、内袋13が破れることによつて物質17が外袋12の中に入つていくとともに外袋12の中で一緒になるのであるといふことも理解されるべきである。内袋13は、外袋12が原形を保つてゐる間に破損すべきであることをわざ、外袋12が破損することなく内袋12が破損するということを確実にしておくということ

ともまた理解さるべきである。

内袋13の左右両端は外袋12の両端に固着しているが、両端方向の引張力が包み11に作用すると、外袋12がまだもとのままである間に内袋13が破損する程度まで、内袋13に応力をかけることが可能でなければならぬ。それを行うためには、二つの袋を作る材料の長さ、伸びおよび強度の相対的割合を適当に整えることを要するが、袋12および13を、同じ材料でかつ同一全長を有するように作ることも行い得る。内袋13は、例えば少くとも一端に隣接して、その側部縫目に切込22をつけることによつて弱くすることが出来る。このようにすると、包装10が両端方向に引張られると、袋12および13の伸びは同じであろうけれども、切込みあるいは幾つかの切込22をつけることによつて弱められているため内袋13は破れるであろう。外袋12がもとのままである間に内袋13の破損がさらに確実に起るようにするために、外袋12を内袋13よりも大きな長さのものとしておけば、包み11に両端方向の引張が加わつた時、内袋13には高い応力がかかるが、外袋12にはもし応力がかかつたとしても相対的に低い応力がかかる。その結果、内袋13はまだ外袋12がもとのままで残つてゐる間に破損するという結果となる。しかも内袋13は両端が外袋12に固着しているから内袋が外袋内で浮動することなく従つて内袋が袋取扱中に不意に破れることを防ぐに有利である。

外袋12がもとのままである間に内袋13が確実に破れるためのもう一つの方法は、外袋12の材質に比べ、非常に少い伸び、相対的に小なる引裂き強度を有するようを材料で内袋13を作ることである。そのようにすると、包み11に両端方向の引張が加えられた時、外袋12は伸びてもとのままでいるが一方、内袋13には過大な応力がかかつて破損するであろう。

ここに述べる本考案の具体化においては外袋がそのままである間に確実に内袋が破れるよう二区画包装を提供するために前述の三つの因子を一つに組合せてある。そのようにして、包装11は二つの袋からなり、そこでは外袋12は内袋13より長く、内袋13は切込22を予めつけることによつて弱められ、そして内袋13は外袋12の材料に比べて非常に伸びの少いかつ相対的に低引裂き強度の材料で作られている。もち

ろん。すでに指摘したように。一つの包装中にこれら三つの特質全てを組合せることは必ずしも必要ではない。

現在では、紙が伸びにくいということより裂け易いという理由から、内袋を紙積層物で作ることが望ましいとされている。

これらの積層物のうちには、紙一ポリエチレン積層物、紙一ポリプロピレン積層物、紙一ナイロン積層物および紙一ビニール重合体積層物が入るであろう。これらの積層物は、紙の表面に当該樹脂を押し出すこと、紙の表面にプラスティックの膜を適当な接着剤を用いて接着すること、あるいは溶剤に溶液となつてあるあるいは水に拡散しているものを用いて樹脂を表面に被覆することによつて準備し得よう。

外袋12に対する要求は内袋13に対するもののように厳しいものではない。どんなプラスティックあるいは積層プラスティックでも室温でかなりの伸びをもつていれば使用し得る。これらにはポリエチレン、ポリプロピル・ナイロン、熱接着した被覆ポリエスチル膜、ビニル重合体、その他の同様な熱可塑性膜または一つ以上のこれらの材料が互にあるいはセロハンと結合して出来ている積層体が考えられよう。現在では、経済的見地から、もつとも普通に用いられる構成は、約0.025mmのポリエチレンで被覆した紙で出来ている内袋13がいちばん実際的である。そして外袋12は厚さ約0.05~0.075mmのポリエチレンの膜で作るがよい。この取合せを用いるならば、ポリエチレンの大きさ伸びにより、外袋12は内袋13よりも多少とも長目にしておく必要はない。一方、

外袋12を作るのに積層物を使用する時は外袋12は、内袋13より20%長めにつがるべきであろう。

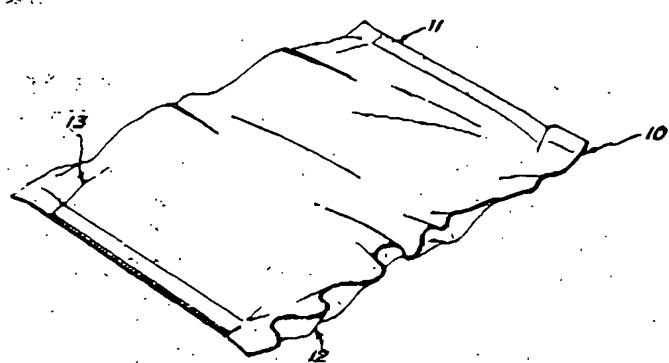
包装11は、二つの互に反応を起すような食物あるいは脱水した食糧と水の包装に使用し得るまた触媒または凝固剤を内袋に、そして外袋にポリエスチルあるいはエポキシ樹脂をいれるというようを接着剤のことき材料の包装に使用し得よう。また、袋11は、硝酸アンモニウムのような無水吸熱性塩と水とを入れておく冷却袋として使用したり、あるいは塩化カルシウムのような無水発熱性塩と水とを入れて加熱袋として使用することも出来る。もちろん、これらは包装11に包みうる多くの物質のうちの数種にすぎない。

上述のことから、欲する目的を実行するための新しい、長所のある用意がなされたことが判るであろう。しかしながら、ここに例として示した包装袋において、附記した申請範囲に規定されることき本考案の精神と範囲とを離れずして種々の改変をなし得るという事実を再び注意しておく。

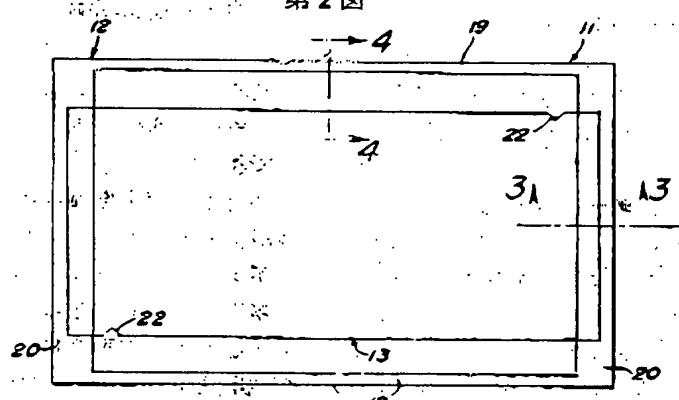
実用新案登録請求の範囲

内袋13と外袋12からなる包装袋11で、該内袋はその上下側邊に切込み22を有し、外袋の中に入れられ、内袋はその両端16を、外袋の両端20にそれぞれしつかり固定されて居り、内袋および外袋には異なる物質がいれてあり、前記の袋の材料の長さ、伸び、強度の相対的割合は、前記包装袋に両端方向の引張が作用した時、前記内袋が破れ内袋の内容物が直接外袋の中に入るような二区割包装袋。

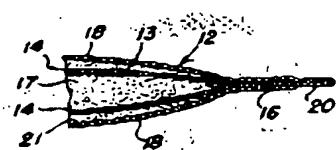
第1図



第2図



第3図



第4図

